

入植があったことを伺わせる。

鎌倉時代になると、自然堤防上に道が築かれ、人が往来するようになった。1221(承久3)年、市域は矢古宇郷という荘園として鎌倉鶴岡八幡宮に寄進された。室町時代には利根川(中川)沿いの柿木などに集落が形成されていた。また、市域の各地から中世の板碑が発見されており、人々の生活があったことを伺わせる。徐々に新田開発も行われ、矢古田領と呼ばれるようになった。

江戸時代、市域は柿木などを除き、多くが幕府の直轄領である天領であった。奥州・日光街道の整備による「草加宿」が誕生し、綾瀬川の改修による舟運の隆盛、湿地等の開拓により市域は大きく発展、現在につながる村落の大部分がこの時代に形成された。1827(文政10)年には草加宿改革組合村が編成され、市域のほとんどが組み入れられた。

明治維新後、廃藩置県により市域のほとんどは小菅県に属し、のち埼玉県に。1889(明治22)年の市制・町村制施行により、草加町、谷塚村、新田村、川柳村、八條村、安行村が誕生。1899(明治32)年に東武鉄道が開通すると、以後は宿場町から駅を中心とした町へと変化していった。

町村合併促進法により、1955(昭和30)年に草加町、谷塚町、新田村が合併、新生草加町が誕生した。その後も編入・分離の動きがあったが、1957(昭和32)年に現在の市域が確定した。1958(昭和33)年11月1日、県下21番目の市として市制施行。その後、松原団地の建設、営団地下鉄(現・東京メトロ)日比谷線乗り入れなど、東京の近郊都市として躍進した。1987(昭和62)年、東武伊勢崎線の高架複々線化が完成。1992(平成4)年には外かく環状道路開通、草加駅東口再開発事業完成。2003(平成15)年には東京メトロ半蔵門線が乗り入れるなど、市は発展から成熟の時代に入った。2008(平成20)年に市制施行50周年を迎える。

(通史編上P140～)

■板碑 外かく環状道路 舟運 草加駅東口再開発事業 草加宿 草加町 東武伊勢崎線 日光街道 松原団地

そう か ほっけい 草加八景

市を代表する8つの景観。市制30周年を記念して1988(昭和63)年11月、市民から推薦のあった37か所の候補地の中から選定された。

【歴史を伝えるふるさとの景観】

- ①日光街道草加松原
- ②音店河岸と下妻街道
- ③葛西用水の桜並木(久伊豆神社以南)

【新しいまちのシンボル】

- ④森と桜の峯分橋(伝右川)
- ⑤辰井川十橋

【生活にうらおいをもたらす身近な景観】

- ⑥綾瀬川の桜堤(新栄町団地東)
- ⑦浅間神社境内(瀬崎町)
- ⑧東福寺境内(神明一丁目)

(昭和63年11月20日号・昭和64年1月1日号)

■綾瀬川 葛西用水 河岸 桜スポット 下妻街道 浅間神社 草加松原 辰井川 伝右川 東福寺 日光街道

そう か まつ 草加ふささら祭り

市民・文化・産業・行政が共生する「元氣な草加 誇れるふるさとづくり」の実現に向け、市民、市内の団体、組織、市が未来を共有し、協働して取り組む各種イベントの総称。2008(平成20)年11月1日の市制50周年を機に市を挙げて行われるイベントで、11月1日から3日にかけて、「第31回草加市民まつり」「第17回草加商工会議所まつり」「第6回宿場まつり」「第6回草加さわやかさんコンテスト」「文化の広場2008」が開催される。会場は草加市文化会館、綾瀬川左岸広場、草加松原遊歩道、左岸広場南側公共用地、県道足立越谷線沿い。

祭りの名称は公募され、応募総数541点の中から「草加ふささら祭り」に決定した。「ふささら」は、市民に親しまれている「草加音頭」の一節にある「二人寄り添い ふささら さいさい」「さっさ やさきた ふささら さいさい」に由来し、一面に実った稲穂が風に吹かれてさらさらと触れあう情景を表現している。市制50周年を機に、市民一人ひとり

が豊かな心を実現させる稲穂となつて、心と心が触れあい支えあう共生社会の実現を望む意気込みを「ふささら」に託し、命名された。

(平成20年7月5日号)

■市民まつり 宿場まつり 商工会議所 草加さわやかさんコンテスト 文化の広場

そう か ぶんけい 草加文芸

1991(平成3)年7月14日に発足した草加ペンクラブの会誌。同クラブは市内に在住する文芸家の集まり。『草加文芸』は2006(平成18)年7月20日創刊。俳句、短歌、詩、随筆、児童文学、小説等の各部門にわたる総合雑誌。

■埼玉文化 文芸草加「ふれあい」

そう か まつ こ 草加文庫

市発行の文庫。市制30周年を記念して1988(昭和63)年より年1〜2冊のペースでこれまでに13冊を刊行。A6判で、定価は350〜650円。市役所情報コーナー、中央図書館で販売。

- ①私の好きな風景／②草加を描いた文芸家たち／③草加と美術家たち／④戦身体験記・夕焼けはきらいだ／⑤街道散歩(絶版)／⑥奥の細道の世界(絶版)／⑦草加詩ごよみ／⑧奥の細道文学賞作品集1〜5／⑨私の好きな道

■奥の細道文学賞 広報そうか

そう か まち 見守り隊

2003(平成15)年11月19日に市、警察、地域の巡回を日常業務とする企業・団体等の事業者の6団体により発足。「草加の地域社会を見守る目、犯罪を見張る目」となり、市内の犯罪撲滅を目指す防犯ネットワーク(2008(平成20)年8月1日現在22事業者と協定書を締結)。行政と警察が、より安心できる地域社会を築くために結成。自動車、バイク、自転車等に見守り隊を表示するステッカーなどを付け、業務のかたわらパトロールを行っている。

また、ウォーキングや愛犬の散歩時の個人ボランティアによるパトロール隊員、安全安心ボランティア「そうかまち見守り隊」も活動して

いる。

(平成15年12月5日号・平成19年7月20日号・平成20年6月5日号)

そう か まつ なみ き ほ ぞんかい 草加松並木保存会

草加松原の保護団体。1975(昭和50)年に高度経済成長に伴う環境の悪化から、かつて800本以上あった松並木が200本以下に減ったことを憂い、有志が約100本を補植したことをきっかけとして、1976(昭和51)年8月、草加青年会議所を中心に市内の35団体800人が参加して発足した。松の木の台帳づくり、老木の手入れ、若木の補植などを行い550本を超える松並木になるまでに回復させるなど大きな成果をあげた。台風の日には松の若木が倒れないようにと強風の日、会員が集まり松を守ったというエピソードも残されている。こうした保護活動が認められ、1984(昭和59)年6月、建設大臣(現・国土交通大臣)から功勞表彰を受けた。1991(平成3)年3月の礼拝場河岸公園の完成を機に、松並木の管理が草加市みどりの協会に委託されたことから役割を終えた。

(通史編下P745・昭和51年10月20日号・昭和59年7月5日号)

■草加松原 草加松原遊歩道 礼拝場河岸公園 みどりの協会

そう か まつ ばら 草加松原

旧日光街道の草加六丁目橋付近から旭町一丁目南端までの綾瀬川沿いに約1.5km続く松並木。草加の代表的な景観。江戸時代より「草加松原」「千本松原」と呼ばれ、昭和20年代までうっそうとした松並木が緑のトンネルを形成し街道の名所になっていた。

植樹時期は定かではないが、一説では、1630(寛永7)年の綾瀬川改修時に植えられたといわれる。しかし、1751(寛延4)年成立の『増補行程記』(盛岡藩士清水秋全筆)には松並木は描かれていない。市内旧家の1792(寛政4)年の史料に1230本の苗木を植えたというのが、現在確認できる最古の記録のようである。1806(文化3)年完成の『日光道中分間延絵図』には、道の両端に数多くの松が描かれている。

1869(明治2)年の調査では485本、1877(明治10)年には補植されて806本あったといわれる。1928(昭和3)年発行の『埼玉県史跡名勝天然記念物調査報告書4』には「距離延長約14町(約1500m)、樹数778本、道路の東側390本、西側388本、大きさ通常目通周囲約4〜5尺、高さ7〜8間、最大なるもの目通周囲約8尺、高さ12間」とある。

1933(昭和8)年の国道4号拡幅工事の時、松並木の西側を伐採する計画が持ち上がった。草加町では「草加町保勝会」を組織し、松並木の保護を求め、国道4号の下り線を新たに新設させ、松並木を守った。

その後約630本あったが、昭和40年代には、自動車通行量の増加による排気ガスや工場からのばい煙などの影響で、成木は約200本にまで減少した。1971(昭和46)年、市は「松の枯死の原因究明と対策」を検討し、松原再生に着手した。草加松並木保存会による保護・補植、草加松原内を通過していた県道足立越谷線の上り車線を西側に移動させたことなどにより松の本数は徐々に増加し、2008(平成20)年4月現在633本にまで回復している。また、1985(昭和60)年からの県と共同で実施した埼玉シンボルロード整備事業により草加松原遊歩道も整備された。

草加松原は1987(昭和62)年には「日本の道100選」(国土交通省所管)に、続いて1988(昭和63)年には「利根川百景 綾瀬川と松原」(同)にも選出され、草加市のシンボルと



して全国に知られている。さらに2004(平成16)年には、社団法人日本ウォーキング協会により「美しい日本の歩きたくなるみち500選」に選ばれた。これは、「誰もが歩きたくなるみち」“多くの人にすすめたウォーキングコース”を全国から募集し、2427件の応募の中から500件を選んだもの。県内では草加松原のほか11か所が選ばれている。

また、1987(昭和62)年には、草加松原で採取された黒松の種子1万粒が、市と国際姉妹都市を結ぶ米国カリフォルニア州カーソン市にプレゼントされた。

管理は、1991(平成3)年から草加市みどりの協会が行っていたが、2006(平成18)年から市で行っている。

(通史編下P743・資料編ⅡP596・資料編ⅣP689・昭和62年8月20日号・昭和62年11月20日号)

■カーソン市 県道足立越谷線 草加松並木保存会 草加松原遊歩道 日本の道100選

そう か まつ ばら ゆう ぼ 道 草加松原遊歩道

草加松原に整備されている遊歩道。県道足立越谷線の草加六丁目橋付近から旭町一丁目南端までの綾瀬川沿い約1.5km。1982(昭和57)年、草加松原内を通過していた県道足立越谷線の上り車線を西側に移したのを機に、1985年(昭和60)年、埼玉県・市が共同で「埼玉シンボルロード整備計画」として整備。「せせらぎゾーン」「松原ゾーン」「シンボルゾーン」「イベントゾーン」「歴史ゾーン」の5つに分かれ、遊歩道、せせらぎ水路、百代橋、礼拝場河岸公園、松尾芭蕉像、矢立橋などが整備された。百代橋及び矢立橋は、「おくのほそ道」と松並木のイメージから和風の太鼓橋とし、橋名も「おくのほそ道」にちなんだ。1987(昭和62)年、建設省(現・国土交通省)の「手づくり郷土賞」を受賞したほか、同年に日本の道100選にも選定された。

遊歩道内の松は623本(2008(平成20)年4月現在)。遊歩道には石畳が敷かれ、百代橋や矢立橋など県道・市道をまたぐ歩道橋も架けられ